

学校感染症罹患時の対応について

※以下の疾患が疑わしい場合;すみやかに保健室(不在時は事務課)に連絡すること。【連絡先】①保健室 045-985-6566 ②事務課 045-985-6503

※受診し、診断書の発行を受けること。

※授業・実習復帰に際しては保健室に相談すること。

病名	症状	感染経路	潜伏期間	感染性のある時期	学校保健安全法に基づく登校基準
インフルエンザ (鳥インフルエンザH5N1を除く)	悪寒、頭痛、発熱(38℃以上)で発症 (頭痛、咳、鼻汁で始まることもある) 続いて倦怠感、腰痛、筋肉痛等の全身 症状が生じる(呼吸器・消化器症状が 出現することもある)	飛沫感染 接触感染	平均2日 (1～4日)	発熱1日前から発熱3日目をピー クとして7日頃まで	発症した後(発熱出現初日の翌日を1日目として)5日 を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで出席停止
麻疹	発熱、発疹、咳嗽、鼻汁、結膜充血、 眼脂、コプリック斑(口腔粘膜の白斑)	空気感染 飛沫感染	主に8～12日 (7～18日)	発熱出現1～2日前から発疹出現 4日目頃まで	発疹に伴う発熱が解熱した後3日を経過するまで出席 停止
風疹	発熱、発疹、リンパ節腫脹・圧痛	飛沫感染 接触感染	主に16～18日 (14～23日)	発疹出現7日前から出現後7日目 頃まで	発疹が消失するまで出席停止
水痘	発疹、水疱、発熱	空気感染 飛沫感染 接触感染	主に14～16日 (10日未満や21日 程度の場合も)	発疹出現1～2日前からすべて の発疹が痂皮化するまで	すべての発疹が痂皮化するまで出席停止
流行性耳下腺炎	耳下腺の急激な腫脹・疼痛、発熱	飛沫感染 接触感染	主に16～18日 (12～25日)	耳下腺などの唾液腺が腫脹する 1～2日前から腫脹5日後 (唾液中には腫脹7日前から腫脹後 9日後までウイルスが検出される)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後 5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで出席 停止
流行性角結膜炎	結膜充血、眼瞼腫脹、眼の異物感、 流涙、眼脂、耳前リンパ節腫脹	接触感染 飛沫感染	2～14日	初期の数日(その後、数ヶ月ウイ ルス排出が続くこともある)	医師において感染のおそれがないと認められるまで 出席停止
マイコプラズマ感染症	咳嗽、発熱、頭痛(咳嗽は徐々に激しく なり、3～4週間持続する場合もある)	飛沫感染	主に2～3週間 (1～4週間)	症状のある間がピークであるが、 保菌は数週～数ヶ月持続する	症状が改善し、全身状態が良くなるまで出席停止
带状疱疹	潜伏していた神経に一致した領域の 皮膚の刺激感、疼痛、発疹、水疱	潜伏感染 接触感染	特定できない	水疱が形成されている期間	すべての発疹が痂皮化するまで出席停止
感染性胃腸炎	嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、発熱	経口感染 接触感染 飛沫感染	ノロウイルスは 12～48時間 ロタウイルスは 1～3日	症状のある期間 (便中には3週間以上ウイルスが 排泄されることもある)	症状軽減後、全身状態が良くなるまで出席停止